

江戸川・ふれあい松戸川かわまちづくり協議会

～設立に向けた準備会～

2026年3月26日(木) 開催

江戸川・ふれあい松戸川 かわまちづくり協議会の設立に向け、基本事項の確認や方向性のすり合わせを行いました。

江戸川・ふれあい松戸川 かわまちづくり協議会の設立に向けた準備会を開催しました。今回は準備会として、これまでの取組を振り返りながら、協議会の組織や進め方、今後の方向性等について意見交換を行いました。

日時： 2026年3月26日(木) 13:15～14:30

会場： 松戸市衛生会館

開催の挨拶

主催者の松戸市より協議会設立に向けて、「江戸川・ふれあい松戸川」の魅力や課題、改善点について皆様から幅広く意見をいただき、それらを今後の「かわまちづくり計画」の策定に活かしていきたいとの挨拶がありました。

協議会委員紹介

町会・自治会や関係団体から、地域活動、観光、環境、子育て、商業など幅広い分野・立場の委員が参加し、それぞれ自己紹介を行いました。

協議会の会長をお務めいただく 千葉大学大学院園芸学研究院秋田教授から、これまでのワークショップ等の取組を踏まえ、今後のかわまちづくりに繋げていきたい、副会長の千葉大学小林名誉教授より自然環境の視点から支援していく旨のご挨拶をいただきました。



協議会設立について

協議会の設立趣旨としてふれあい松戸川の現状や立地的なポテンシャルを踏まえ、自然環境の保全と利活用の両立を図りながら、憩いの場としての魅力を高めていくことを目的に、協議会を設立し、かわまちづくり計画の策定を進めていくことが説明されました。実施体制として設置要綱や設置要領により、所掌事務や委員の構成・運営方法などについて確認が行われました。



また、協議会のアドバイザーとして、武蔵野美術大学の長谷川教授が承認され、今後はランドスケープ等の専門的な知見からの助言をいただく予定です。



かわまちづくりの進め方

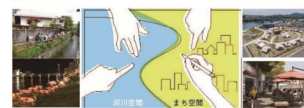
ふれあい松戸川の現状、これまでのワークショップ・シンポジウム、かわまちづくりの概要、かわまちづくりの進め方について事務局より説明がありました。

これまでのワークショップ等での意見を踏まえ、現時点の仮の利用目標として「自然環境の保全・活用」、「憩いや安らぎを感じる水辺空間の利用」、「多様な主体の連携による持続的な運営管理」が示されました。

今後の進め方としては、協議会において地域や関係団体、学識経験者、行政などが連携し、アドバイザーや関係機関の助言も受けながら議論を進め、社会実験等を取り入れつつ、かわまちづくり計画の策定を目指していくことが説明されました。

2. かわまちづくりとは「概要」

「かわまちづくり」とは「河川空間」と「まち空間」が融合した、良好な空間形成を目指す取り組みのこと。



「かわまちづくり」で実現できること
「かわ」が有する地域特有の魅力を活かし、「まち」と一体となった「ソフト施策」や「ハード施策」を実施することで、水辺空間の質を向上させ、地域の活性化や地域ブランドの向上などが実現できます。



「かわまちづくり」支援制度とは
地域の「かわまちづくり」の推進を河川管理者が支援する制度です。推進主体は「かわまちづくり計画」に基づき、「ハード施策」・「ソフト施策」を行います。




登録件数の推移 「かわまちづくり」法第10条第2項第2号第2年度(2020年度)の制度設立以降、毎年10~20件程度が登録されています。




「かわまちづくり」支援制度：国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課より

意見交換

協議会での本格的な議論に先立ち、「江戸川・ふれあい松戸川」の今後のあり方や活用方法について、各委員の立場から多様な意見等をいただきました。

- 自然環境の観点からは、野鳥観察や生きものとのふれあいを通じて自然の大切さを学ぶ場としての活用や、貴重な自然環境を将来に引き継いでいくことの重要性が指摘されました。
- 子育て世代の視点からは、自然体験の機会が減少している中で、子どもたちが身近に小魚を観察したり、自然に触れられる場所としての期待が示されました。
- 賑わいづくりに関しては、駅周辺での人の流れの創出や、水辺空間でのイベント、キッチンカーの出店など、民間のアイデアを活かした利活用の可能性について意見が出されました。
- 観光の観点からも、来訪のきっかけとなる体験コンテンツの充実や、地域の魅力発信の必要性が挙げられました。
- これまで地域で活動してきた団体からは、イベント実施の経験を踏まえ、騒音や利用マナーへの配慮、原状回復の徹底など、周辺環境との調和の重要性が共有されました。あわせて、アクセスの改善や動線の確保、堤防道路の拡幅、駐車場や休憩施設の必要性など、利用環境に関する具体的な課題も示されました。また、草地管理や土壌改良など、実践的な取組を通じた環境づくりや、市民参加による維持管理のあり方についても意見が出され、自然環境の保全と人の利用を両立させる視点の重要性が共有されました。



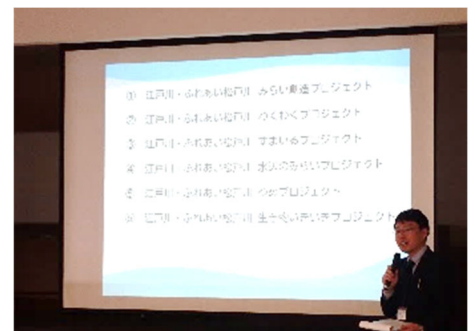
- 松戸市建設部渡辺部長より、本来の目的が終了したふれあい松戸川の緑豊かな空間を草の繁茂の問題や治安の問題などをしっかりと解決した上で、さらに魅力的な空間にしていきたい。そのためには、地域住民、千葉大学や各団体の皆様の協力を得ながら行っていく必要があるとの発言がありました。



- 秋田会長より、かわまちづくりは全国で何百か所と行われているが、自然を再生しながらかわまちづくりを行うというのは、多分一番新しく、しかもそれを松戸という50万都市で行うというのは、本当に素晴らしいこと。皆さんの話からワンチームとしてやっていけることがとてもよく分かり、次回からの協議会でも、すばらしい検討ができるのではないかと楽しみにしていると発言がありました。

最後に、今後の「江戸川・ふれあい松戸川かわまちづくり」を広く情報発信していくプロジェクトタイトルとして、各委員の投票により

「江戸川・ふれあい松戸川 生き物いきいきプロジェクト」に決定しました。



閉会の挨拶

事務局より、本日の参加への謝意が述べられるとともに、引き続き協力をお願いしたい旨の呼びかけがあり、閉会となりました。

